



初夏の陽気となった 6 月 16 日の活動日には、12 名の精鋭が集結、繁茂してきた雑草とシノブの除去、水路からの浸食による進入路復旧工事などに心地よい汗を流しました。勢いが弱まったと思っていたシノブですが、梅雨による水分補給にたっぴりの太陽光が重なり、元気いっぱいになってきました。更に進入路では、並行している水路からの浸食を受け、通行もままならない状況に。こちらは、国土交通省直轄の災害復旧工事により、安全に通行できるようになりました。

継続は力なりを合言葉に、活動してまいりますので、特に若い皆様の参加をお待ちしています

大量失業者を生む AI に負けないぞ

AI が奪う仕事ランキングで、常に上位に位置付けられている公務員。

実は AI には強い AI と弱い AI があり、強い AI は人間の脳を目標としているのに対して、弱い AI は人間が行う作業の一部を機械に代替させています。現在の AI には、主体性や意思を持たないという弱点があり、「なぜ？」や「ひらめき」というところは人間には敵わないとされている一方、2040 年代にはコンピューターが全人類の知性を超える「シンギュラリティ (技術的特異点)」に到達するとの指摘があります。

このような中、日本の労働人口の 49% が 10 年から 20 年後にロボットや AI による代替が可能との調査結果を、野村総研とオックスフォード大学が公表しました。更に、残った仕事でも、AI やロボットの導入によって仕事の内容が大きく変化するため、労働者の再教育を進める必要があるとの事。

アマゾンが広大な倉庫内で導入している物流ロボット、一台当たりの単価は大量生産により 1 万ドル程度まで下げることを目指しているそうです。

1 日 24 時間、365 日文句も言わず、ひたすら正確に働くロボットが 100 万円程度で手に入ることになれば、新興国でさえ労働単価が安いという価値は薄れます。

何とも世知辛い世の中になってきましたが、現実として AI 社会が進展している中において、自らの存在価値をどのように高めていくのか・・・を希求していくことが AI に対する最大の防衛策となりそうです。記憶も計算も AI が担う時代、知識を習得することだけに専念しても AI を上回ることは出来ません。そのことにフラッシュして「なぜ？」と問いかけながら、筋道を立てて説明することが求められ、それを実現するための基礎学力が、AI 時代に生き残る重要な要素になりそうです。

文章を正しく理解するための読解力、自分の考えや意志を明確に伝え説得する論理力、数字を使って分析的に解く数学力などの基礎学力が必要と知って、暗記を主体とした学生生活を送ってきたことに後悔をしつつ、ふと、考えますと、10 年後には定年退職を迎えている自分に心の底からホッとしております (^_-) - ☆

今回も頑張ったぞ～



Before



After



国交省直轄復旧工事により整備された進入路

里山には危険もいっぱい



チャドクガの幼虫

活動フィールドの椿に、日本を代表する毒蛾、チャドクガの幼虫が大繁殖。この幼虫のとげに刺されると、かゆみが2～3週間続くこともあるそうです。里山での活動は、幅広い知識を得れます。

次回活動日のお知らせ

日程：平成30年7月21日(土)

時間：午前8時30分 市役所正面駐車場の北側又は現地駐車場集合

内容：シノブや雑草退治(草刈隊、出勤願います。)

夏季休み前の最後の活動とします。



メンバー募集 キノコモクラブでは常に活動メンバーを募集しています。

里山は、農林業など様々な人間の働きかけを通じて環境が形成・維持されてきたものですが、人口の減少や高齢化の進行、産業構造の変化等により自然資源の循環が失われており、これら環境の変化が生物多様性や、レクリエーション、水源涵養、土砂災害防止、地球環境保全など、里山の多面的な機能を低下させています。平成24年に策定した「木津川市学研木津北・東地区土地利用計画」、この作業に関わっていた当時の学研企画課職員が発起人となって始めた里山整備のボランティア活動ですが、夏季を除いて月に一度、午前中に活動しています。行動が伴わない評論家や傍観者でない、若くて体力のあるみなさまの積極的な参画をお待ちしております。興味のある方は、木津川市役所 マチオモイ部の武田までご連絡ヨロシクです